

## ガン、アトピーをも予防するミネラル新知見

東京農業大学客員教授 渡辺和彦

### I 過去の講演内容の復習

- ①海水の主成分 NaCl は、若干だが作物に対して病害抵抗性付与効果がある。  
現代農業の事例だけでなく、アメリカ、イギリスではテンサイ、テーブルビートに岩塩を 10a あたり 56kg 施用している。またアスパラガスでは除草効果、立枯れ病発病抑制効果と増収効果が認められており、昔は良く用いられていた。特に病理学者エルマーが精力的に研究している。
- ②海水は水耕培養液濃度（園試処方）のマグネシウムは 28 倍、イオウは 14 倍、ホウ素は 9 倍の濃度を含む。  
したがって原液のままでは塩（NaCl）の害だけでなく、マグネシウムやホウ素の過剰障害も受けやすい。したがって、10 倍希釈\*すると、これら肥料成分の作物への補給になる。（\*水耕栽培の場合。葉面や土壌散布はもっと低倍率希釈でよい）
- ③生体内の ATP<sup>4-</sup> の約 90% は、[ATPMg]<sup>2-</sup> 複合体を形成している。  
作物体中マグネシウムは葉緑素の構成要素だけでなく、ATP が活動するところは Mg を必要とする。例えば、師管に光合成でできたデンプンがショ糖の形態で入るのに、ポンプ役として大きなエネルギーが必要だが、ATP とともにマグネシウムが働く。したがって、マグネシウムは作物体内の糖転流もよくする
- ④マグネシウムは活性酸素発生抑制作用が作物でも動物でもある。  
マグネシウムは脳梗塞、糖尿病などの予防効果があるが、兵庫県にある企業、タテホ化学工業は塩田で働く人に癌発生が少ないことから、マグネシウムの大腸ガン抑制効果を古くから岐阜大学医学部と共同研究を実施。マウスの実験で、同社の有機マグネシウム飲用で、大腸ガン発生が低下することを実証した。
- ⑤海水に多く含まれるホウ素は高齢者の脳を活性化する。  
アメリカ農務省の人体実験による研究であるが、ホウ素摂取量の少ない人に比べ、多い人の脳は判断力が早い。また閉経後女性の血液中女性ホルモン濃度を高く維持する等のデータも得られている。

### II アトピーの治療方法とアトピー悪化因子について

海水農法や有機農業に期待されている人々にアトピー性皮膚炎の方もおられる。アトピーの治療方法とアトピーの悪化因子について、今回は詳細に説明する。なお、主たる情報源は名古屋の有沢祥子先生と近畿亜鉛研究会の先生方による。米アレルギー第1発見者の長谷川浩先生にも発見経緯等について本年8月にお伺いし、写真の引用許可もいただいた。

昭和60年頃から米アレルギーが現れ始め、平成元年頃を境にアトピー性皮膚炎が急に日本国内で増加し、今や世界で2番目に多い。次のキーワードを講演会で説明する。

- ①海外生活を1週間以上するとアトピー性皮膚炎が軽快化する。日本食の好きな外国人が日本で生活しているとアトピー性皮膚炎になる。このままでは日本はダメになる。有沢祥子先生のみじめなお気持ちです。
  - ②米アレルギーがなくとも極良食味米を食べると痒みがでる。
  - ③昔は米をやめパンにすると、軽快化した。今はパンも昔と変わってしまった。
- そこでアトピー性皮膚炎の治療方法は
- ①米はゆきひかり、あるいはササニシキなど古い品種に替える。
  - ②外食はできるだけ避ける。増粘剤カラギナンもアトピーの悪化因子となる。
  - ③お菓子などの間食をやめる。自宅で作るお菓子は良い。
  - ④保険が適用されず、自費診療になるが、亜鉛補充療法は効果がある。